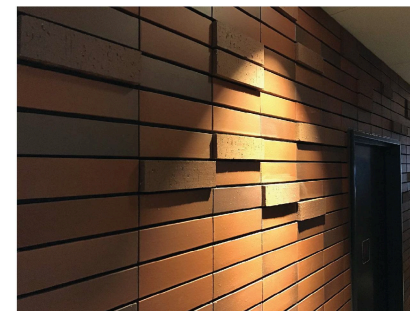


記憶の積層

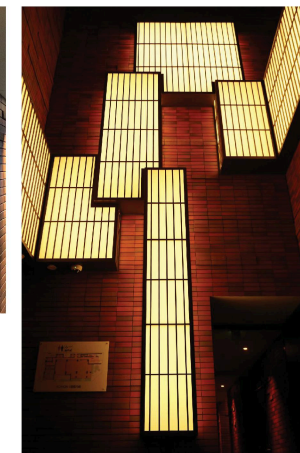
この土地の時間軸や街並みの記憶を継承するため、
外観は時代を表すフレームを積み上げ、
ガラスサッシやバルコニーで凹凸感を与えた。

階層にまたがるフレームは各テナントのファサード情報が
単調な水平展開にならないように試み、
同時にテナントの賑わいが通りからも見て取れるようになっている。

積み上げたマッシブなコンクリートフレームは
浦和宿の門のイメージの骨格をなし、波打つルーバーは時代の継承を表す。
ガラスファサードは現在のまちの姿を映し出す。



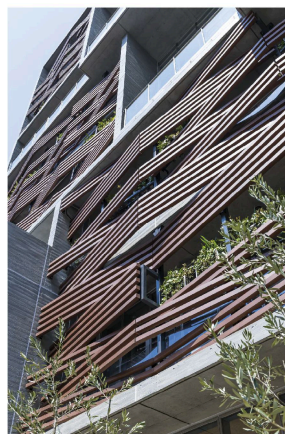
レンガ素材の活用



宿場モチーフの照明



フレームの積層とガラスファサード

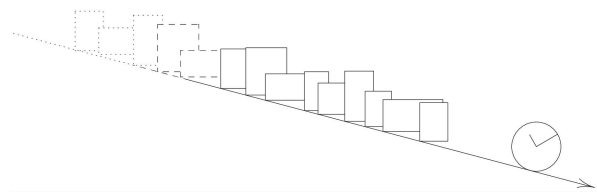


立体的で波打つルーバー

テラスや庇に配した花木はハードな外観に柔らかさを与え、
四季を彩る植栽に時間の流れを感じると共に、人々に風景の認識を高めてくれる。
室内からの眺めにも豊かな季節感を与え、室内の環境負荷の低減に効果を生む。

モチーフに宿場を連想する格子や、この地の歴代の建物を
思い起こすレンガ素材を用いることで、土地の歴史や名残を感じさせ、
今と昔を繋ぐ風景の記憶を想起させてくれる新しくもどこか
馴染みの土着性がある建物が完成した。

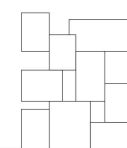
時間軸と、時代を表すフレーム



土地に根付く歴史と記憶



積層と建築化



+

